

♪ 2018年度 **poco a poco** ♪

Nr. 19 2019年1月14日(月) 文責: プファイル・辰巳

遅ればせながら・・・

今年もよろしくお祈りします!

3学期が始って、1週間が過ぎました。

新年のよいスタートが切れたでしょうか。学校生活のリズムは戻ってきましたか。

3学期の授業日数は50日ですから、すでに10分の1が終わってしまった計算になります。うかうかしてられないなあ、と思います。大事な学年の締めくくりの時期でもある3学期を、充実した日々をしたいものですね。



音楽こぼれ話 <作曲家のこの一曲 ⑱ オペラの名作  
ジャコモ・プッチーニの「ラ ポエーム」>

みなさんはドイツや近隣の国々のオペラハウスで、本格的なオペラをご覧になったことがありますか。日本で鑑賞するのに比べると、リーズナブルなお値段で、素晴らしいオペラを見ることが出来ますので、ぜひドイツ滞在中にオペラ鑑賞もしていただきたいと思います。

フランクフルトにもオペラハウスがありますし、ヴィースバーデンにもすてきなオペラ劇場があります。ミュンヘンやザルツブルグ、パリやウィーンなどには、世界的に有名なオペラハウスがありますね。

さて、本日紹介するのは、そのオペラ劇場で最もよく演奏されるイタリアオペラの一つ「ラ ポエーム」です。作曲したのは、ジャコモ・プッチーニ。

プッチーニは1858年に、イタリアはトスカーナ地方のルッカという町に生まれました。代々宗教音楽家の家系だったので、最初は教会のオルガニストになりましたが、大作曲家ヴェルディの「アイダ」というオペラを聴いて人生が変わりました。オペラの作曲家を目指し、1880年からミラノ音楽院で学び始めたということです。

第3作目の「マノン レスコウ」でオペラ作曲家としてブレイクした後は、

「ラポエーム」「トスカ」「マダム バタフライ(蝶々夫人)」などの名曲を世に送り出し、現代でも世界各地で演奏されています。

中でも「ラ ポエーム」は、クリスマスイブから第1幕が始まるとあって、冬の演目の定番になっています。1830年代のパリ、屋根裏部屋で暮らす貧しい芸術家たちのボヘミアン生活が題材です。画家、詩人、音楽家、哲学者という4人の若者とお針子のミミ、ダンサーのムゼッタが主な登場人物です。ミミと画家のマルチェロは恋に落ちますが、貧しい二人はミミの重病を直す薬代にも事欠き、最後にはミミが命を落としてしまうという悲話です。



「私の名前はミミ」「ムゼッタのワルツ」など有名なアリアが含まれたこのお話、パリの裏町の風景とプッチーニのロマンティックな音楽とともに、楽しめるオペラだと思います。

ちなみに、もう一つの作品「蝶々夫人」は舞台が日本で、主人公の蝶々さんは日本人女性。音楽の中にはたくさんの日本のメロディも、プッチーニが上手に取り入れています。こちらにも日本人には親しみやすいかと思います。

ちょっとだけ 演奏会情報

フランクフルト・オペラハウスにて

「子どものためのオペラ ラ ポエーム」

演奏日時	2月23日(土)	13:30	と	15:30
	26日(火)	16:00		
	27日(水)	16:00		
	3月2日(土)	13:30	と	15:30

フランクフルト・アルテオーパーにて

2月10日(日) 16:00から モーツァルトホールにて  
ファミリーコンサート「音楽冒険物語」

2月20日(水) 20:00から モーツァルトホールにて  
内田光子 ピアノリサイタル  
シューベルトのソナタ 変ホ長調 ほか